

# キャンパス散策 (南九州大学)



南九州大学は、豊かな自然と温和な気候に恵まれた南九州の環境のなかで、創造性に富み、人間性と社会性豊かな人間を育成するとともに、食・緑・環境に関する基礎的、応用的研究をすすめ、専門分野において社会に貢献寄与できる人材を育成することを教育理念とし、昭和42年（1967年）、宮崎県児湯郡高鍋町のひばりが丘に園芸学部園芸学科、造園学科の1学部2学科で開学しました。

その後、昭和51年（1976年）に農業経済学科。昭和61年（1986年）に食品工学科を増設し、1学部4学科に拡大。平成11年（1999年）には、大学院（園芸学・食品科学研究科）を開設するに至ります。平成14年（2002年）には環境造園学部を設置し、造園学科と地域環境学科（農業経済学科を改組）の2学科編成とし、園芸学部（園芸学科、食品工学科）と2学部体制となりました。

平成15年（2003年）、宮崎市霧島町に宮崎キャンパスを新設。健康栄養学部を設置し、管理栄養学科（新設）と食品健康学科（食品工学科を改組）の2学科編成とし、これにより南九州大学は、教育理念の「食・緑・環境」の分野のそれぞれの学部を有する大学へ成長しました。また、同時に園芸学部園芸学科の入学定員も増員しています。

平成13年（2001年）に「食と緑と環境」の専門大学として、新世紀にさらなる飛躍を願い、シンボルマークを作成。「環境と生命の調和」をテーマに、全体の円形とブルーは青く輝く地球を、グリーンは自然の息吹（新芽）をイメージ化しました。



園芸学部、環境造園学部のある高鍋キャンパスは、眼下に広大な太平洋を望み、キャンパス周辺を深い緑に彩られ、自然のありのままの姿に触れることができます。30ヘクタールの敷地のうち18ヘクタールはコンピュータ管理された30棟のガラス温室を備えた附属農場や樹木園やフラワーガーデン、日本庭園等が設けられた附属実習場になっています。講義と実習が同じキャンパス内でおこなわれることは、生きた自然を相手に学ぶ上で、本学の特徴の一つである「実学主義」の実践につながっています。高鍋キャンパスには、本館、講義棟、園芸学研究棟、造園学研究棟、環境造園学部研究棟、総合体育館、運動場、学生会館等の設備が研究、教育、学生生活を支援しています。この素晴らしい環境が認められ、NHK連続テレビ小説「わかば」のロケ地として全国に放映されました。

健康栄養学部のある宮崎キャンパスは、宮崎市の中心部に位置し、周辺には図書館、美術館、芸術劇場や総合博物館などのアカデミックな施設が立ち並び、宮崎神宮の広大な緑地とともに静かな文教の空間にあります。7階建ての校舎には、生理学・食品学実験室、食品加工・調理の実習室、臨床栄養・栄養教育の実習室などHACCPに対応した最新の実験施設が完備されています。100台のコンピュータを備えた情報処理演習室では多彩なソフトを用いて様々な授業に活躍しています。また、事務局、図書館、学生食堂、売店などの施設も同じ校舎内にあるので、学生生活は、非常に便利になっています。また、宮崎キャンパスには南九州短期大学（国際教養学科、専攻科）も併設されています。



環境デザイン研究室



共通科目



情報処理演習室

南九州大学の教育の特徴は、「食・緑・環境のスペシャリスト養成」「実学主義（実験・実習・フィールドワーク重視）」「少人数教育」があげられます。

人の心と体を理解し一人一人の生活の質を向上させる管理栄養士や有機化学、微生物学、遺伝子工学をはじめとした科目を通じてバイオサイエンスの基礎を学び食と健康のためのフードサイエンスを学ぶ「食」。



独自の総合園芸学、果樹・蔬菜園芸学、花卉園芸学、環境保全園芸学の4つのコースで園芸学の基礎から応用までを学ぶ「緑」。

造園学を環境創造、環境計画の学問として捉え、伝統的な庭園、公園といった空間芸術から、国土の緑化による景観形成や自然環境と人間社会の共生の実現を目指し学ぶ「環境」。



実験・実習・フィールドワークは重視のカリキュラム構成になっています。また、教員1人あたりの学生数が最も少ない園芸学部園芸学科では1研究室に所属する1学年の学生数は平均5.3人となっています。